

令和 5 年度 教育企画委員会 活動報告

■委員名	委員長：小林由香 副委員長：段 久美 委員：中谷千鶴・片岡貴子・高山良子・春名寛香・飛田利栄子・北野貞向井美千代
■開催回数	5 回
■活動目標	1. 資質向上につながる教育計画立案のために、現場および会員の視点で協議を行う。 2. 協会からの諮問事項に基づいて、必要な教育研修の企画について協議する。
■活動内容	1. 教育認定部からの報告により、教育研修の実施状況を把握し、今後の課題を抽出し、教育計画に反映する。 第 1、2 回委員会において、自施設、地域の方々からの意見を集約し、今年度の教育研修企画を参照しながら検討を行った。 2. 教育企画委員会主催研修の企画・実施 日 時：令和 6 年 1 月 15 日 受講者数：2 年目看護職 40 名 テ ー マ：2 年目看護職集まれ研修 看護の楽しさ 再発見！ 内 容：自己や同世代の看護職との対話や体験型学習を通して、看護の楽しさや、自分らしい看護の再発見、“やりたい看護”や“なりたい看護師像”を描きなおした。 3. 『基礎教育と卒後教育の現場担当者による交流会』の開催 日 時：令和 5 年 11 月 29 日 参 加 者：病院 6 名、訪問看護ステーション 2 名、教育現場 2 名、行政機関 1 名 教育企画委員 9 名 目 的：看護基礎教育と臨床現場の意見交換を行い、新人看護職育成の今後の課題を抽出し、看護の質を向上させる一助とする。 検討内容：①臨床現場から今年度の新入職者の現状と新人を育てる工夫等 ②教育機関から今年度の教育における工夫や学生の状況等 ③今後の課題
■活動の評価	1. 各施設や周辺地域での研修ニーズから課題を抽出し、次年度の教育計画に反映できた。 2. 教育企画委員会主催研修の実施 アンケート結果では、看護について改めて考えた、今後の自分のやるべきことが見えたなど目標を達成できたというコメントが多くみられ、約 95% の参加者が研修のねらいを達成できたと答えた。研修の理解度、実践に役に立つか、今後やるべきことが明確になったかについては参加者全員が肯定的にとらえていた。 同年代が集まり、看護を語る機会が必要なことが示唆された。

	3.『基礎教育と卒後教育の現場担当者による交流会』の開催 臨床現場の教育担当者から、今年度の新入職者の現状と新人を育てる様々な工夫を紹介され、教育現場からは、看護学生の特徴と学生とのかかわりや教育方法について情報提供された。活発なディスカッションで、各々の立場から課題を共有でき、新入職者を迎え、育てるためのヒントを得ることができた。 今後の新人教育への提案として、メンタルサポートの重要性、横のつながりもうまく作れない人が増えているため人間関係形成の強化、自分の気持ちの表現もうまくできないので、自己開示出来るようになるために表現の工夫（言葉でなくイラストなども活用）、指導者役割を通して、新人看護師自身が成長を実感できる支援が必要で、従来のやり方ではなく指導者の意識改革が必要と考えられた。
■今後の課題	・研修が参加者に知られていない、参加動機につながっていないこともあるので、施設側と看護協会が協力して検討し、参加しやすい工夫が必要である。 ・同年代の看護職が集まり看護を語る機会として、次年度も継続する必要がある。 ・基礎教育と卒後教育の現場担当者による交流会では、良い意見交換ができたので、この検討内容を参加していない施設にも広報する手段を検討する必要がある。